

微生物学

著書

- 1) 富岡治明: 抗酸菌薬剤感受性試験 (結核菌薬剤感受性試験), LAB DATA 臨床検査デ・タブック 2007-2008 年版, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 470-476, 2007.
- 2) 富岡治明: ナイアシンテスト, LAB DATA 臨床検査デ・タブック 2007-2008 年版, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 477-478, 2007.
- 3) 富岡治明: 総説現代ハンセン病医学, 大谷藤郎 監修, 牧野正直・長尾榮治・尾崎元昭・畑野研太郎 編集, 東海大学出版会, 41-71(全 468 頁), 2007.
- 4) 富岡治明: 抗酸菌薬剤感受性試験 (結核菌薬剤感受性試験), LAB DATA 臨床検査デ・タブック コンパクト版 第 4 版, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 238-246, 2007.
- 5) 富岡治明: ナイアシンテスト, LAB DATA 臨床検査デ・タブック コンパクト版 第 4 版, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 246-248, 2007.
- 6) 富岡治明: 抗酸菌薬剤感受性試験 (結核菌薬剤感受性試験). LAB DATA 臨床検査デ・タブック コンパクト版 第3版 / 看護医学電子辞書3, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 234-242, 2007.
- 7) 富岡治明: ナイアシンテスト. LAB DATA 臨床検査デ・タブック コンパクト版 第 3 版 / 看護医学電子辞書 3, 高久史磨 監修, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖 編, 医学書院, 東京, 242-243, 2007.

学術論文

- 1) Tomioka H, Shimizu T, Tatano Y: Effects of picolinic acid on the antimicrobial functions of host macrophages against *Mycobacterium avium* complex. International Journal of Antimicrobial Agents, 29(4): 460-464, 2007.
- 2) 富岡治明: [総説] -診断- 結核菌の検査法. 臨床と研究, 84(4): 484-488, 2007.
- 3) 富岡治明: [解説] 多剤耐性結核は旧ソ連、中国に多く、米や香港は減少 The Mainichi Medical Journal, 3(6): 456-457, 2007.
- 4) 富岡治明: [総説] 非結核性抗酸菌の基礎. 日本胸部臨床, 66(7): 529-540, 2007.
- 5) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: ピコリン酸によるマクロファージの *Mycobacterium avium* 殺菌能増強作用とアポトーシスとの関連性. 日本化学療法学会雑誌, 55(5): 358-362, 2007.
- 6) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛: 宿主マクロファージのアポトーシス誘導をベースにした *Mycobacterium avium* complex 症の新しい治療レジメンの開発. 乳酸菌研究会に関する報告書(平成18年度): 449-455, 2007.
- 7) 佐野千晶, 清水利朗, 多田納豊, 安元剛, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complex 感染マクロファージにおけるフォスホリパーゼ A₂ の細胞内動態. 感染症学雑誌, 81(6): 695-699, 2007.
- 8) Tomioka H: [Revisiónes] Estrategias innovadoras para la obtención de drogas antituberculosas (Strategies for development of antituberculous drugs). Estrategias clínicas para medir la función vascular, 15(5): 819-825, 2007.

- 9) Tomioka H: [Review] Development of new antituberculous agents based on new drug targets and structure activity relationship. Expert Opinion on Drug Discovery, 3(1): 21-49, 2008.
- 10) 富岡治明: [総説] 新規抗結核薬の現状と展望. 呼吸器科, 13(1): 74-83, 2008.
- 11) 富岡治明: [総説] 感染症領域における新年の展望. ドクターサロン, 52(1): 16-20, 2008.
- 12) Tomioka H, Tatano Y, Yasumoto K, Shimizu T: [Review] Recent advances in anti-tuberculous drug development and novel drug targets. Expert Review of respiratory medicine, 2(4):455-471, 2008.
- 13) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 山部清子: 漢方薬と免疫修飾薬を用いた *Mycobacterium avium* complex 症の新しい治療レジメンの開発. 乳酸菌研究会に関する報告書 (平成 19 年度): 464-473, 2008.
- 14) 富岡治明: [総説] 結核の微生物学と免疫. 臨床検査, 52(10):1077-1084, 2008.
- 15) 富岡治明: [総説] 第 82 回日本感染症学会総会・学術講演会・最新の話題, 感染制御 4(4): 319-322, 2008.

学会発表

- 1) 安元 剛, 清水利朗, 多田納豊, 富岡治明: 小結節・気管支拡張型 MAC 症の起炎 MAC 菌のマクロファージ内増殖能について. 第 57 回日本結核病学会中国四国支部会(第 15 回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会との同時開催), 広島, 2007 年 1 月.
- 2) 多田納豊, 安元 剛, 清水利朗, 富岡治明: 小結節・気管支拡張型 *Mycobacterium avium* complex (MAC) 症の起炎 MAC 菌の宿主細胞内増殖能の検討. 第 80 回日本細菌学会総会, 大阪, 2007 年 3 月.
- 3) 清水利朗, 多田納豊, 蔡 杉杉, 富岡治明: 免疫抑制マクロファージからの抑制性シグナル伝達と標的 T 細胞内チロシンリン酸化蛋白質のかかわり. 第 80 回日本細菌学会総会, 大阪, 2007 年 3 月.
- 4) 清水利朗, 多田納豊, 蔡 杉杉, 富岡治明: [ワークショップ] 抗酸菌感染で誘導される免疫抑制マクロファージのサプレッサ・活性発現と標的 T 細胞内チロシンリン酸化蛋白とのかかわり. 第 81 回日本感染症学会総会, 京都, 2007 年 4 月.
- 5) 多田納豊, 安元 剛, 清水利朗, 富岡治明: [ワークショップ] 小結節・気管支拡張型 *Mycobacterium avium* complex (MAC) 症の起炎 MAC 菌のマクロファージ内増殖能について. 第 81 回日本感染症学会総会, 京都, 2007 年 4 月.
- 6) 安元 剛, 清水利朗, 多田納豊, 富岡治明: [ワークショップ] ピコリン酸によるマクロファージの抗 *Mycobacterium avium* complex 活性発現増強作用のメカニズムについて. 第 81 回日本感染症学会総会, 京都, 2007 年 4 月.
- 7) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元剛: 宿主マクロファージのアポトーシス誘導をベースにした *Mycobacterium avium* complex 症の新しい治療レジメンの開発 平成 19 年度中四国乳酸菌研究会総会, 岡山, 2007 年 5 月.

- 8) 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 山部清子, 富岡治明: マクロファージ内抗 MAC 抗菌活性に及ぼすピコリン酸の影響. 第 82 回日本結核病学会総会, 大阪, 2007 年 6 月.
- 9) 多田納豊, 安元 剛, 清水利朗, 山部清子, 富岡治明: 小結節・気管支拡張型 MAC 症の起炎 MAC 菌の性状. 第 82 回日本結核病学会総会, 大阪, 2007 年 6 月.
- 10) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: ピコリン酸および ATP によるマクロファージのアポトーシスの誘導とマクロファージ抗 *Mycobacterium avium* complex 活性増強作用. 第 60 回日本細菌学会中国・四国支部総会, 岡山, 2007 年 10 月.
- 11) 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complex 感染で誘導される免疫抑制マクロファージから標的 T 細胞内への抑制性シグナル伝達における T 細胞内アルドース還元酵素の役割. 第 60 回日本細菌学会中国・四国支部総会, 岡山, 2007 年 10 月.
- 12) 清水利朗, 富岡治明: [シンポジウム] 抗酸菌感染症の成立機構. 第 50 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 (第 55 回日本化学療法学会西日本支部総会同時開催), 神戸, 2007 年 10 月.
- 13) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: ピコリン酸によるマクロファージ抗 *Mycobacterium avium* complex 抗菌活性増強作用とアポトーシスの誘導. 第 77 回日本感染症学会西日本地方会, 佐賀, 2007 年 11 月.
- 14) 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 富岡治明: 抗酸菌感染で誘導される免疫抑制マクロファージから標的 T 細胞内への抑制性シグナル伝達とアルドース還元酵素とのかかわり. 第 77 回日本感染症学会西日本地方会, 佐賀, 2007 年 11 月.
- 15) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛: 抗酸菌感染マクロファージの

アポトーシスに関する研究（第1報）．第38回結核・非定型抗酸菌症治療研究会，東京，2007年12月．

16) 安元 剛，清水利朗，多田納豊，富岡治明：小結節・気管支拡張型および結核類似型 MAC 症起炎菌の細胞内増殖能，ROI，RNI 産生誘導能，薬剤感受性の比較検討．第58回日本結核病学会中国四国支部会，岡山，2008年2月．

17) 清水利朗，安元 剛，多田納豊，富岡治明：MAC 感染で誘導される免疫抑制マクロファージのサプレッサ・活性発現と標的 T 細胞内のアルドース還元酵素とのかかわり．第58回日本結核病学会中国四国支部会，岡山，2008年2月．

18) 清水利朗，多田納豊，安元 剛，富岡治明：[ワークショップ] 免疫抑制マクロファージによる標的 T 細胞内アルドース還元酵素のチロシン脱リン酸化．第81回日本細菌学会総会，京都，2008年3月．

19) 安元 剛，清水利朗，多田納豊，富岡治明：小結節・気管支拡張型および結核類似型 MAC 症起炎菌の細胞内動態の比較．第81回日本細菌学会総会，京都，2008年3月．

20) 富岡治明：[会長講演] 抗酸菌感染症の化学療法薬開発と免疫補助療法の現況．第82回日本感染症学会総会，松江，2008年4月．

21) 清水利朗，多田納豊，安元 剛，佐藤勝昌，佐野千晶，富岡治明：抗酸菌感染で誘導される免疫抑制マクロファージのサプレッサ・活性発現と T 細胞内アルドース還元酵素の脱リン酸化とのかかわり．第82回日本感染症学会総会，松江，2008年4月．

22) 多田納豊，清水利朗，安元 剛，佐藤勝昌，赤木竜也，佐野千晶，富岡治明：[ワークショップ] ピコリン酸および ATP によるマクロファージ抗 Mycobacterium avium complex 活性増強作用とアポトーシス連動性．第82回日本感染症学会総会，松江，2008年4月．

23) 安元 剛, 清水利朗, 多田納豊, 佐野千晶, 佐藤勝昌, 富岡治明: 小結節・気管支拡張型および結核類似型 MAC 症起炎菌の細胞内増殖, ROI, RNI 産生誘導能, 薬剤感受性の比較検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 2008 年 4 月.

24) 安元 剛, 清水利朗, 多田納豊, 富岡治明: 小結節・気管支拡張型および結核類似型 MAC 症起炎菌の細胞内動態の検討. 第 83 回日本結核病学会総会, 東京, 2008 年 4 月.

25) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: ピコリン酸および ATP によるマクロファージ抗 MAC 抗菌活性増強作用とアポトーシスの連動性. 第 83 回日本結核病学会総会, 東京, 2008 年 4 月.

26) 富岡治明: [特別講演] 新しい視点からの抗酸菌症治療薬の開発研究の現況. 非結核性抗酸菌症研究協議会総会, 東京, 2008 年 4 月.

27) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 山部清子: 漢方薬と免疫修飾薬を用いた *Mycobacterium avium* complex 症の新しい治療レジメンの開発. 平成 20 年度中四国乳酸菌研究会総会, 岡山, 2008 年 5 月.

28) 富岡治明: [特別講演] 新しい drug target をベースにした抗結核薬開発の現状と展望. 第 23 回広島感染症研究会, 広島, 2008 年 5 月.

29) 富岡治明: [特別講演] MAC 症の免疫補助治療. 第 15 回マクロライド新作用研究会, 東京, 2008 年 7 月.

30) Yasumoto K, Shimizu T, Tatano Y, Sano C, Tomioka H: The usefulness of picolinic acid, a natural metal ion chelator, as an adjunct for clinical antimicrobial chemotherapy of *Mycobacterium avium* complex infections. International Union of Pure and Applied Chemistry International Conference on Biodiversity and Natural Products, Charlottetown, Prince. Edward Island, Canada, July, 2008.

- 31) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complex 感染マクロファージにおけるフォスホリパーゼ A₂ の細胞内動態についての検討. 第 61 回日本細菌学会中国・四国支部総会, 愛媛, 2008 年 10 月.
- 32) 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complex 感染で誘導される免疫抑制マクロファージの標的 T 細胞のサイトカイン産生に及ぼす影響. 第 61 回日本細菌学会中国・四国支部総会, 愛媛, 2008 年 10 月.
- 33) 富岡治明, 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛: MAC 感染で誘導される免疫抑制マクロファージの標的 T 細胞のサイトカイン産生に及ぼす影響. 第 39 回結核・非定型抗酸菌症治療研究会, 東京, 2008 年 11 月.
- 34) 富岡治明, 多田納豊, 清水利朗, 佐野千晶, 安元 剛: MAC 感染マクロファージにおけるフォスホリパーゼ A₂ の細胞内動態についての検討. 第 39 回結核・非定型抗酸菌症治療研究会, 東京, 2008 年 11 月.
- 35) 多田納豊, 清水利朗, 安元 剛, 富岡治明: *Mycobacterium avium* complex 感染マクロファージにおけるフォスホリパーゼ A₂ の細胞内動態. 第 78 回日本感染症学会西日本地方会, 広島, 2008 年 12 月.
- 36) 清水利朗, 多田納豊, 安元 剛, 富岡治明: 抗酸菌感染で誘導される免疫抑制マクロファージの標的 T 細胞の Th1 ならびに Th2 サイトカイン産生に及ぼす影響. 第 78 回日本感染症学会西日本地方会, 広島, 2008 年 12 月.